

☆実態及び課題

教科	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	<p>学習の中で話すことに関しては積極的に発言し、自分の考えをしっかりと伝え意欲的に取り組む児童が多い。一方で、平仮名の学習では、字をたくさん書くことに慣れていない児童が多く、集中力にける部分がある。また、板書をノートに写したり教科書の平仮名を写したりなど、見て書くことに時間がかかってしまう児童もいる。全体的に書くことと、説明文の読み取りが苦手な児童が多い。</p>	<p>自分の意見を積極的に発言できる児童が多い。一方で、みんなの前で発表することに抵抗のある児童もいる。「読むこと」においては、物語の読み取りで、登場人物の気持ちを考え、ノートに書いたり、発言したりすることができる児童が多い。「話すこと・聞くこと」においては、自分の意見は伝えられるが、友達の話最後まで聞くことができない児童がいる。また、「書くこと」において、「はをへ」や促音を正しく使えない児童がいる。</p> <p>【NRT】 多くの項目で全国平均を上回っているが、漢字の読み、言葉のまとまりが低い傾向にある。</p>	<p>「読む」学習では、物語文や説明文の叙述から、自分の考えをもつことができる児童が多い。また、自分の考えをグループや学級で発表することができる児童も多い。一方で、「書く」学習において、意見文や感想文などの作文に苦手意識を感じる児童が多い。文を書くときに既習の漢字を書くことができない児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、文を正しく書く力が低い傾向にある。</p>	<p>物語文や説明文の学習では、叙述を基に筆者の考えを読み取ったり、そこから考えを広げたりすることができる児童が多い。一方で、自分の考えを言語化したり、文章にして書いたりすることに苦手意識を感じている児童も多い。また、文章を順序立てて書くことができず、作文に苦手意識を感じている児童も多い。さらに、漢字の読み書きについては、既習した漢字を活用して、文章を書くことに苦手意識のある児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、自分の考えをまとめたり文を整理したりする力が低い傾向にある。</p>	<p>物語や説明文の学習では、叙述を基に読み取ることができる児童が多い。一方で、筆者の意見に対して自分なりの考えや主張をもつことが苦手な児童もいる。また、話し合いでも同様に、自分の意見をもち、それを伝えることが苦手な児童がいる。さらに、漢字の読み書きについては、既習した漢字を活用して、文章を書くことに苦手意識のある児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、漢字の読み書きと、自分の考えや感想を伝える力が低い傾向にある。</p>	<p>物語や説明文の読み取りはよくできている。また、自分の意見をもち、考えを伝えることができる児童が多い。一方で、話し合いでは、自分の考えを伝えるばかりで話がまとまらなかったり、方向が逸れてしまったりすることがある。また、既習の漢字を活用して文章を書くことに苦手意識のある児童も多い。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、漢字の読み書きが低い傾向にある。</p> <p>【学力調査】全ての項目で全国学力調査の正答率を上回っている。一方で、調べたことを基に、詳しく書くことに課題が見られる。</p>
社会			<p>文京区の土地や建物の様子について、これまでの生活の経験から考えることができた。一方で、文京区の地図など、資料を読み取ることに苦手意識がある児童が多い。また、調べて分かったことをまとめることに課題がある児童もいる。</p>	<p>どの単元も意欲的に発言する児童が多い。水道やごみの学習では、教科書から情報を読み取り、そこに関わる人びとの努力や工夫について考え、問題解決に繋げることができている。一方で、読み取った内容から必要な情報を精選したり、それらの情報を自分の言葉でまとめたりしていくことに課題をもっている児童が多い。</p>	<p>どの児童も教科書、資料集、タブレットを活用して、様々な情報を収集し、まとめることができている。一方で、情報過多となり、適切にまとめることができなかった児童もいる。また、まとめることだけに注力し、なぜそのような事象が起きているのか等の理由や根拠についてまで言及できない児童もいる。</p>	<p>どの児童も、タブレットを活用して意欲的に調べることができている。情報を収集したり、整理したりする力も少しずつ高まってきている。一方で、事実や出来事の理解にとどまってしまう、出来事の背景を十分に捉えていない児童もいる。また、歴史的背景を伝えても、十分に理解できない児童もいる。</p>
算数	<p>数字を書いたり、計算問題を解いたりすることに対しては意欲的に取り組み、自信をもって学習している児童が多い。一方で文章題や計算を使つての話作りなど、応用的な学習においては苦手な児童が多い。ノートの書き方に関して、うまくまとめることはまだまだ課題ではあるが、板書通りにノートに書くことはできる。</p>	<p>算数への学習意欲が高い児童が多い。1年生までの学習内容が定着している児童が比較的多い。一方で、文章問題の読み取りが難しい児童や時刻でつまづいている児童が複数いる。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、絵や図を用いた数量の表現の正答率が低い傾向にある。</p>	<p>九九など2年生までの学習の基礎が定着している児童が多い。3年生の学習も、どの単元においても基礎的な理解ができている。一方で、単元別テストの結果においても個人差が大きい。授業中もしっかりとわかりやすく説明できる児童が決まってしまっている。また、見直しなどをせずに単位の書き忘れなどのケアレスミスも多い。文章問題を読んでもかけ算なのかわり算なのか判断に迷ってしまう児童が多い。</p>	<p>四則計算やグラフの製作等、基礎的な知識については概ね身に付いている。文章問題等の応用的な部分では定着に大きく差があり、立式や説明、自分の考えのまとめや紹介等においてつまづいてる児童がいる。</p> <p>【NRT】 全ての項目で全国平均を上回っているが、児童によって結果に差が見られる。「二等辺三角形の説明」の正答率が低く、</p>	<p>単元別テストや授業中の発言から理解度の差が大きいことが分かる。小数のわり算や小数の倍を文章から考えることが難しい児童が多くいる。説明まで積極的にがんばることができる児童もいる。単位忘れなどのケアレスミスもある。合同など図形に関してはよくできていた。</p> <p>【NRT】 どの領域においても全国平均の正答率を上回っている。「面積の単位換算」は全国</p>	<p>対称な図形では、線対称は全体的にできているが、点対称になると苦手になる児童がいる。分数の計算はほとんどの児童が習得できた。一方で、文章の問題になるとどちらが割る数でどちらが割られる数になるのかなど整理ができていない児童が半数くらいいる。</p> <p>【NRT】 どの領域においても全国平均の正答率を上回っている。全国平均よりは上回って</p>

			<p>【NRT】 どの領域においても全国平均の正答率を上回っている。数と計算領域と測定・データの活用については、正答率が8割程度であり、定着している。</p>	<p>無答の児童も多かった。図形の性質の理解に課題がある。また「およその重さ」もやや低かった。量的感覚が十分でない児童がいると思われる。</p>	<p>平均よりは高いが、他に比べると正答率が低い。</p>	<p>るが、「倍数の考えの適用」、「2つの円周の差の変化」、「複数グラフの読み取り」の項目で正答率がやや低い。</p> <p>【学力調査】全ての項目で全国の正答率を上回っている。数量が増えたかどうかを調べる際に、適切なグラフを選んで数量の増減を判断し、その理由を説明することに課題が見られる。</p>
理科			<p>日常の体験や知識から、学習問題に対しての予想を立てることができる。観察や実験に対して積極的に取り組んでいる。一方で、自分の予想と違う結果が出た時などに、考察をすることを苦手とする児童が多い。また、実験で得られた結果に関心を持ち、新たな課題を見つけることができる児童が少ない。</p>	<p>積極的に学習に取り組んでおり、概ね学習内容が身に付いている。実験や観察の時は、自分で考えて見方を変えたりいろいろと試したりする等、意欲的に取り組む児童が多い。細かいところまでよく観察し、記録することができるが、結果を一般化し、結論に結び付けることが困難な児童がいる。</p>	<p>実験結果を基に、自分なりの考えを表現することができる児童が多い。また、植物を積極的に世話し、変化を逐一報告する児童もいた。さらに、実験方法を考える時には、条件制御をきちんと考えることができる児童も多い。</p> <p>一方で、自然現象を見て、学習問題を作ることが苦手な児童もいる。</p>	<p>どの実験も意欲的に取り組んでいる。また、実験器具の扱いも上手になってきており、正確な結果を出すことができている。一方で、その結果をもとに「この結果から何が分かったか」「どんなことが言えるのか」という考察の段階では、手が止まってしまう児童がいる。</p> <p>【学力調査】水の温まり方に関する問題をまとめるために、必要な調査事項を明確にして記述することが、全国の正答率より低い傾向がある。</p>
生活	<p>動く活動に対しては、前向きで意欲的に取り組む児童が多い。学校探検や朝顔の世話など自分達が動かないといけないことに様々な視点から考え学習に取り組んでいる。一方で、植物を様々な視点からしっかりと観察をすることが苦手な児童も一定数いる。</p>	<p>植物の世話や観察を意欲的に取り組む児童が多い。変化や特徴などの気付きを絵や文章等で表現することは多くの児童ができる。季節の食べ物や生き物、行事にも興味関心があり、意欲的に取り組む児童が多い。一方で、友達のよい気付きや考えを見付けることができていない児童もいる。</p>				
音楽	<p>歌唱活動や音楽に合わせて体を動かす鑑賞活動では、楽しみながら意欲的に取り組んでいる。また、リズムを即興的に打つ音楽づくりの活動も拍にのって演奏することができた。課題としては、友達の演奏を落ち着いて聴く習慣を身に付けることや、鍵盤ハーモニカの基本的な技能を身に付け、息の使い方を工夫した奏法を身に付けることである。</p>	<p>器楽では、1年生からの積み重ねもあり、読譜ができていない児童が多いが、新出の指くぐり(またぎ)につまずいている児童もいる。歌唱に関しては、曲の雰囲気やリズムを感じ取って歌うことができる児童が多い。しかし、同時に声を張り上げる歌い方になってしまうこともあるため、伴奏や友達の歌声も聴いて、歌うことが課題である。</p>	<p>活動によって息の使い方を調節できるようになってきている。歌唱では、響きのあがる声で歌えるようになってきているが、楽しくなりすぎて地声で叫ぶように歌ってしまうことがある。リコーダーの活動では、歌の時の呼吸と違うことを意識し、柔らかな音色で演奏できるよう工夫している児童が多い。課題としては、グループ活動の時、目標を忘れたまま活動をすることである。</p>	<p>様々な活動に興味をもち、意欲的に取り組んでいる。歌唱活動では、二部合唱に取り組んで間もないが、互いの声を聴き合って歌うことができた。器楽活動では、読譜力があり進度が速い児童がいる一方、運指でつまずき曲の仕上げに時間がかかる児童もいて、全体での進度の差が大きい。また、鑑賞活動において、聴き取ったことと感じ取ったことの関係を整理し、文章にまとめることが難しい。</p>	<p>落ち着いて様々な活動に意欲的に取り組んでいる。また、表現することを楽しんでいる。合奏の活動では、選択した楽器が一緒の子ども同士で教え合う、一緒に演奏するなど工夫して取り組んでいる。二部合唱のグループ活動では、練習内容を自分たちで考え、工夫して取り組むことができる。しかし、発表になると自信がもてず練習の成果が出せない場合が多い。</p>	<p>様々な活動で前向きに取り組む習慣が身に付いている。特に器楽活動では、目標を達成するまで粘り強く取り組めるようになってきているが、集中できない児童もいる。歌唱活動では、二部合唱に慣れ、他のパートと一緒に歌う楽しみを感じてきている。しかし、歌詞の意味を読み取りそこから表現を工夫することは苦手である。</p>
図工	<p>授業を楽しんで取り組んでいる姿が多い。活動の進め方の話を聞いて理解し、自分で表現し始められる児童が多いが、1つ1つ確認する児童や活動を始められない児童</p>	<p>意欲的でのびのび制作している。年度初めにみんなと同じ課題ができなかった児童も、徐々に同じ課題ができるようになってきた。一方で、手順の間違いや似た質問</p>	<p>どの題材に対しても興味関心が高く、楽しんで制作している。片付けが苦手な児童もいるが、それをフォローする児童もいるため、協力し合って取り組んでいる。発想力</p>	<p>知的好奇心が高く、苦手な題材でも、まずは試してみようというチャレンジ精神に溢れている。作り始めはどの児童も夢中だが、仕上げの段階になると飽きてしまう場</p>	<p>落ち着いて全体指導を聞くことができ、几帳面で丁寧な制作する児童が大半である。しかし失敗を恐れる傾向が強く、全体指導は理解しているものの、不安で教師に</p>	<p>これまでの積み重ねがきちんとできているので、既習事項を生かして新しい題材に応用することができる。新しい技法もすぐに理解し、制作に生かしている。一方で、</p>

	童もいるので、声掛けが必要である。	が多く出ることもある。	も豊かだが、めあてから逸れた方向に発想が伸びてしまうことがある。	合があり、集中力や興味関心の持続に課題が残る。	個別指導を求める場面が多い。	制作に夢中になると片付けの時間になっても切り替えられないことがある。
家庭					初めての調理や裁縫の学習に興味をもって取り組む児童が多い。やり方が分からない児童がいると、進んで教えている姿が多く見られた。自分の作業に集中する時間を増やすことが課題の児童が少なからずいる。	調理や裁縫など、実習的な物は興味をもって取り組むことができる。一方、講義が中心の授業になると的確な発言をする児童もいるが、なかなか自分の考えをもてない児童もいる。
体育	どの活動でも意欲的に運動に取り組むことができている。友達と一緒に楽しむことができている児童が多く見られる。一方で、勝敗がある活動に対して、消極的な様子も見られる。	多くの児童が積極的に運動に取り組むことができている。できないことや苦手なことにも少しはチャレンジしようとする意欲をもっている児童が多く見られる。一方で、勝敗を受け入れて、友達と仲良く運動をすることが難しい児童もいる。	意欲的に活動に取り組む児童が多い一方で、苦手な運動をすることを避けようとする児童もいる。また、勝ち負けへのこだわりが強く、ルールを守れなかったり、気持ちのコントロールができなかったりすることがある。	意欲的に運動に取り組む児童が多い。できないことや苦手なことにも前向きに挑戦しようとする児童が多い。一方で、勝ち負けのある運動については、勝ちへのこだわりを強くもつ児童が多く、気持ちのコントロールができない児童もいる。	多くの児童が意欲的に運動に取り組んでいる。リレーやマット運動では、教え合う場面が多く見られた。共に学び合い、高め合おうとする気持ちがある。一方で、自身の課題の把握が難しかったり、その課題に向き合えず、進んで課題解決を図れなかったりする児童がいる。	どの児童も、技能獲得に向けて、試行錯誤を繰り返しながら学習に取り組んでいる。また、苦手な友達がいたら、親身にサポートし、共に技能を高め合おうとする姿も見られる。一方で、ある程度技能が獲得できると、それ以上を求めようとならない。
道徳	話を讀んだり周りの考えを聞いたりして、自分の考えをもてるようになってきた。一方で、学習の中で考えたことを生活の中で生かして行動に移している児童は少ない。	内容を讀み取り、深め、自分の考えをもつことができる児童が多い。また、友達の意見もよく聞いて、自分の考えを深めることができる児童もいる。一方で、学習で学んだことを生活の中で生かすことができず、授業内で完結してしまう児童もいる。	内容を讀み取り、心情などについて自分の考えをもつことができる児童が多い。また、友達の考えを聞いて、良いところに気付いたり考えを深めたりすることができる児童もいる。一方で、単元の価値項目を生活に生かそうとすることに課題がある児童もいる。	登場人物の気持ちをよく考え、自分自身と照らし合わせたり、これからのことを考えたりできている児童もいるが、話の意図とは違う解釈をして見当違いの考えをもったり、何を考えるのかをよく理解していない児童もいる。	教科書の話をよく読み、登場人物の気持ちを考え、自分の考えをもてる児童が多い。一方で、学んだことを自分の生活と結び付けて考えることに苦手意識のある児童もいる。	各価値項目についてよく考え、自分の考えをワークシートに適切に表現することができる。また、問い返しに対しても、的確に回答できている。一方で、自身の考えや、これからどう人と関わっていくのかなど、自身の生き方について言葉にできない児童もいる。
外国語					リズムに合わせて大きな声で歌ったり、チャンツを唱えたりできる。また、キーセンテンスを使って進んでコミュニケーションを図ろうとするなど積極的に学習に取り組んでいる。	キーセンテンスを使って自分のことを話したり、相手のことを知ったりする活動を通して、異文化に興味関心を示す児童がいる。一方で、活動そのものに消極的な児童がいる。

☆課題解決の視点・手立て ※取り組む内容 課:課題 学:学習形態 発:発問・指示・板書 教:教材の工夫

教科	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正	視点・手立て	評価・修正
国語	<p>学漢字を書くことに意欲をもたせるために、漢字の読み書きと平仮名を混ぜた文をなるべくたくさん書かせる。</p> <p>学「書くこと」では、児童の実態に応じて、ワークシートを使ったりノートに書く量を調整したりして書くことのよさを経験させる。</p> <p>発説明文などの読み取りが難しい学習に関しては、どの部分に注目すればよいのか、分かりやすい板書と発問を心がける。</p>		<p>学「話すこと・聞くこと」では、話の聞き方や、話し合いの仕方の指導を丁寧に行う。また、ペアやグループで話す機会を設け、「相手の伝えたいことは何か」を考えながら聞くようにする。</p> <p>学「書くこと」では、日記や作文を書く機会を多く設け、「はをへ」や促音の正しい使い方を身に付けさせる。</p> <p>学「読むこと」では、言葉のまとまりを意識させて、物語文や説明文の大体を捉えられるように繰り返し音読をさせる。</p>		<p>学「漢字の読み書き」では、漢字ドリルの宿題を毎日出したり、授業で行うミニテストで間違えた問題の復習を行ったりして定着させていく。</p> <p>学「書くこと」では、物語文や説明文で感じたことを、モデル文を見て書き、構成に気を付けて文章を書けるようにする。</p>		<p>課「漢字の読み書き」では、漢字ドリルの宿題を毎日出したり、朝学習の時間に漢字の復習を行ったりするなどをして、確実に定着させる。</p> <p>学物語文や説明文を読んで感じたことを文章に表す機会をつくったり、単元のまとめの学習で作文を書いたりすることで自分の考えを言語化できるようにする。文章を順序立てて書けるように、はじめ・中・終わりを意識させる。</p>		<p>教漢字の読み書きでは、漢字テストを通して間違いの多い漢字の復習などをして定着できるようにする。</p> <p>教物語文や、説明文で、叙述のどこに注目したらよいか分かるように、ワークシートなどを活用する。</p> <p>学グループワークをより取り入れ、友達の意見を聞くことで、自分の意見をもつことができるようにする。</p>		<p>学話し合いでは、1人1台端末を活用することで、共通点や差異点を見付けられるようにする。</p> <p>教漢字の読み書きでは、漢字を使ったクイズなどを取り入れ、楽しく漢字に親しめるようにする。</p>	
社会					<p>学学習のまとめ方の例を提示したり、まとめ方が上手な児童を紹介したりすることで、情報の整理の仕方や表現の仕方を身に付けられるようにする。</p> <p>教写真を用いるなどして、視覚的な資料提示の工夫をすることで、児童が重要な情報について考えられるようにする。</p>		<p>発学習のまとめ方が上手な児童のノートを紹介したり、まとめ方の例を示したりすることで、情報整理の仕方を身に付けられるようにする。</p> <p>学学習のまとめの段階などで話し合い活動を取り入れ、多様な意見や考えを交流することで、重要な情報について考えられるようにする。</p>		<p>発情報過多で、適切にまとめられない児童に対しては、まずは教科書から必要な情報や根拠を調べるよう指導する。</p> <p>課課題を提示する際、理由や根拠も調べるよう指導する。また、全体共有の場面で「なぜ」「どうして」と投げかけ、社会的事象の原因等について考えていけるようにする。</p>		<p>発調べ学習の際に、出来事の原因や理由も調べるよう伝える。</p> <p>学情報をまとめた後に伝え合う時間を設定する。その際、「どうして」をキーワードとし、まずは、グループ内で歴史的背景を理解できるようにしていく。</p>	

算数	<p>学得意な計算問題に取り組ませながら、論理的に説明する時間を設ける。計算以外においても主体的な見方、考え方で学習が、できるようにする。</p> <p>発算数ブロックや物体を使って視覚的に物事を捉えさせたり、身近なことを例に挙げてイメージしやすくしたりする発問をしていく。</p>		<p>発文章問題では、分かっていること、問われていることに線を引いて問題を解き、解くだけでなく、見直しをすることを繰り返し何度も声掛けする。</p> <p>学時刻でつまずいている児童には、日常生活と関連させて、知識を身に付けさせていく。</p>		<p>発普通の授業から問題を解き終わったあとに、必ず見直しをするよう声をかける。単位の書き忘れがないように、授業内でも確実に指導する。</p> <p>学文章から式を立てる時に迷った際は図を使って整理できるようにさせていく。</p>		<p>学自分の考えをノート等にまとめる時間を十分に確保する。つまり、つまずいている児童に対しては、図等を用いて視覚的に分かりやすくしていく等の助言や支援をしていく。</p>		<p>発文章から間違えずに立式できるように、「もとなる数」と「比べられる数」を整理する。数直線の書き方を授業の中で繰り返し指導していく。</p> <p>学なるべく多くの友達に自分の考えを伝え合えるように交流する時間を設ける。全体で説明することが難しい児童に対しても、交流の時間を増やすことで理解と自信を高めていく。</p>		<p>発図形に関しては、基礎的な問題を多く解くことで学習の定着を図っていく。</p> <p>分数などの文章問題に関しては、「もとなる数」と「比べられる数」を数直線に書いて整理できるように徹底していく。</p>	
理科					<p>学実験や観察の前に予想を丁寧に行うことで、結果や気付いたことに対して考察することができるようにする。</p> <p>学日常の様々な自然現象を例に取り上げることで、児童が関心を持ち、課題を見付けられるようにする。</p>		<p>学実験・観察をグループで行い、結果や気付いたことの共有を行う。結論についても話し合わせ、児童の支援とともに共通理解を図ることができるようにする。</p> <p>発問題から結論までの流れが把握しやすいように板書を整理して行う。同時にノート指導も行うことで、学習の流れを分かりやすくし、理解をより深めさせる。</p>		<p>発授業時間以外にも日頃から、様々な自然現象に対する疑問を教師自身が児童に向けて話をする。また、興味関心を引き出せるよう、問いを工夫する。</p>		<p>学まずは、自分で考察し、次にグループ内で共有する。その際に、考察した内容だけではなく、そのような考察に至った経緯を説明させ、考察の思考過程を明らかにしていく。</p> <p>発全体の共有場面では、「逆に、この結果から分からないことは」「この結果を受けて何か違うことは考えられないか」と問い、一つの事象を多面的に捉えられるようにしていく。</p>	
生活	<p>学身近にあるものや経験したことを想起させたり、取り組んできたことを振り返らせたりする時間をつくる。また、児童同士の話し合いの場を多く設ける。</p>		<p>学他教科と関連させて新しい視点を学んだり、友達のカードを見てよい視点を見付けたりして、次の単元に生かせるようにする。</p>									

音楽	<p>発 友達の演奏を落ち着いて聴くために、聴き取るめあてを設定し、聴き取ったことを自分の演奏に生かせるよう取り組ませる。</p> <p>教 鍵盤ハーモニカの活動では、電子黒板を活用し、気を付けるポイントを視覚的にいつでも確認できる環境をつくる。</p>		<p>学 歌唱の課題において、旋律やリズムの特徴を感じ取り、歌詞の内容への想像を広げる活動をつくる。また、自分の歌声に気付いて、周りと合わせて歌う楽しさを感じる機会をつくる。</p>		<p>発 歌唱活動では、楽曲の雰囲気を感じ取ることから始め、感じ取ったことを歌唱に生かしていく。</p> <p>学 グループ活動では、スモールステップで活動を進め、目標を達成できるよう取り組ませる。また、何をすべきか、ふりかえったり確認できるよう板書を工夫する。</p>		<p>学 器楽活動では、目標を3つほど提示し、達成したい目標を選択し取り組む。一つ達成したら、他の目標に取り組めるよう板書で確認できるようにする。</p> <p>発 鑑賞活動では、聴き取ったこと感じ取ったことを板書で確認、共有し、2つを関連付けてまとめられるようにする。</p>		<p>学 合唱の発表では、自信をもって取り組めるよう、グループ同士で互いに演奏を聴き合う活動を行う。発表することに慣れ、自信をもたせてから発表を行う。</p>		<p>学 器楽活動では、取り組み方を選択できるよう設定し、個別化を図る。</p> <p>発 歌唱活動では、新しい楽曲を初めて聴いた際、歌唱の前に、感じたことや気付いたことについて意見交換する場を設定し、歌詞に注目させる。</p>	
図工	<p>発 活動の手順が見て分かるような掲示・板書の工夫を心掛ける。</p> <p>教 身近な例を用意しておき、必要に応じて、掲示できるように準備しておく。</p>		<p>発 口頭での指示だけでなく、板書やプリントにも手順や注意事項を示し、聞き逃した児童も自分で確認できるようにする。</p>		<p>発 言葉だけの説明にせず、画像やスライドショーなど、視覚的に訴える導入を心掛け、めあてや方向性を明確にする。</p>		<p>教 スモールステップで作業工程を細かく分け、見通しをもちやすくすることで、飽きにくくさせる。</p>		<p>発 導入や実演などで失敗してもやり直せる旨を伝え、不安を払拭してからチャレンジを促す。</p>		<p>発 導入で児童に手伝いや手本を頼むなど、教師単体が話す時間を短くする。</p> <p>学 制作時間を意識させるため、片付け開始時刻を表示したり、残り時間をこまめに伝えたりして見通しをもたせる。</p>	
家庭									<p>教 引き続き学習意欲を高められるよう、教材の工夫をしていく。</p> <p>学 集中力を高められるように、作業の時間と説明の時間の区切りをしっかりとつけていく。</p>		<p>発 児童の実生活に繋げる授業展開をすることで、児童の関心をより高められるようにする。</p> <p>教 座学の授業において、実際の道具や材料等の提示、数値の計測の実施等、児童が関心をもちやすい工夫をしていく。</p>	

<p>体育</p>	<p>学勝ち負けだけでなく、動きのコツやよい動きを振り返る場面を設定したり、見通しをもって楽しく運動したりできるように場所の工夫をする。</p> <p>教安全な場の設定の仕方を指導し、安全に活動できるようにする。</p>		<p>学勝敗だけでなく、友達の良かった動きなどを振り返る場面を設定し、楽しく工夫して運動する良さを価値付けていく。</p> <p>教安全な場の設定の仕方を指導し、友達と協力して場の設定ができるようにする。</p>		<p>学課題に対して様々な段階の手立てを準備することで、児童が挑戦できる段階を選び、できた経験を重ねられるようにする。</p> <p>学勝敗がある活動では、児童の良い動きや声掛けを紹介し、勝ち負けにこだわらず、お互いの頑張りを認め合うことができるようにする。</p>		<p>発学習のはじめに、学習内容をしっかりと伝え、見通しをもてるようにする。</p> <p>学勝敗があるものについては、悔しい気持ちも認めつつ、改善策を考えられるような発問をする。また、チームでめあてを立てさせて、めあてに向かって仲間と協力することや、達成させることの楽しさを感じられるようにする。</p>		<p>発課題解決が図れない児童に対しては、「どうになりたいか」、「どうしたいか」を考えさせ、目標とともに主体性を引き出し、取り組めるようにしていく。</p>		<p>教現状に満足してしまい、更なる技能向上を目指せない児童に対しては、新しい技を紹介したり、スモールステップを提示したりしていく。また、小さな「できた」や少しの成長を価値付け、学習意欲を高めていけるようにする。</p>	
<p>道徳</p>	<p>学ペアやロールプレイの活動を通して、自分の気持ちや相手の気持ちを考えられる場面を設定し、日常生活に生かせるようにする。</p> <p>発自分事として考えることができるように身近な出来事と関連付けた発問を考える。</p>		<p>発道徳の学習を日常生活に生かすことができるように、児童の実生活に関わる身近な発問を準備する。</p> <p>学自分ならという視点で考える活動を行うことで自分を振り返る（自己内対話）時間を確保し、自身との関わりの中でそれぞれの価値を捉えていけるようにする。</p>		<p>発授業の最初の発問で、日常から想起しやすいように工夫することで、単元の価値項目を自分の生活に置き換えて捉えることができるようにする。</p> <p>学最後の活動に個人で考える時間を設けることで、自己内対話をし、考えたことを生活に生かそうとすることができるようにする。</p>		<p>発授業のねらいに沿った答えや考え方ができるように発問内容を精選、工夫する。</p> <p>学個人で考える、ワークシート等に記述する等、自己内対話の時間を十分に確保するとともに、グループや全体での意見交流の機会も設けることで、考えを深めさせる。</p>		<p>発普段の生活と結び付けられるように、導入とまとめの段階で自分の経験を伝え合う場を設ける。</p> <p>学ワークシートに自分の考えを書く時間を多く設けることで、活動を通して自己内対話をできるようにする。また、話し合い活動の時間を設けることで、友達の考えを参考にしたり生かしたりすることができるようにする。</p>		<p>発まずは、「これまでどのように人と関わってきましたか」と問い、自身の関わり方や生き方について振り返るようにする。次に、「授業を通して、これからどう関わっていきたいと思いましたか」と問い、自身の考えを言葉にできるようにしていく。こうしたやり取りを通して、自己内対話の力を高めていけるようにする。</p>	
<p>外国語</p>									<p>学更に、自主的に取り組めるよう、発表内容や学習形態を児童に考えさせるなどの工夫をしていく。</p>		<p>教ゲームなどを盛り込み、楽しく活動できるようにする。</p> <p>発書くことに苦手意識のある児童には、机間巡視をして、こまめに声掛けする。</p>	